

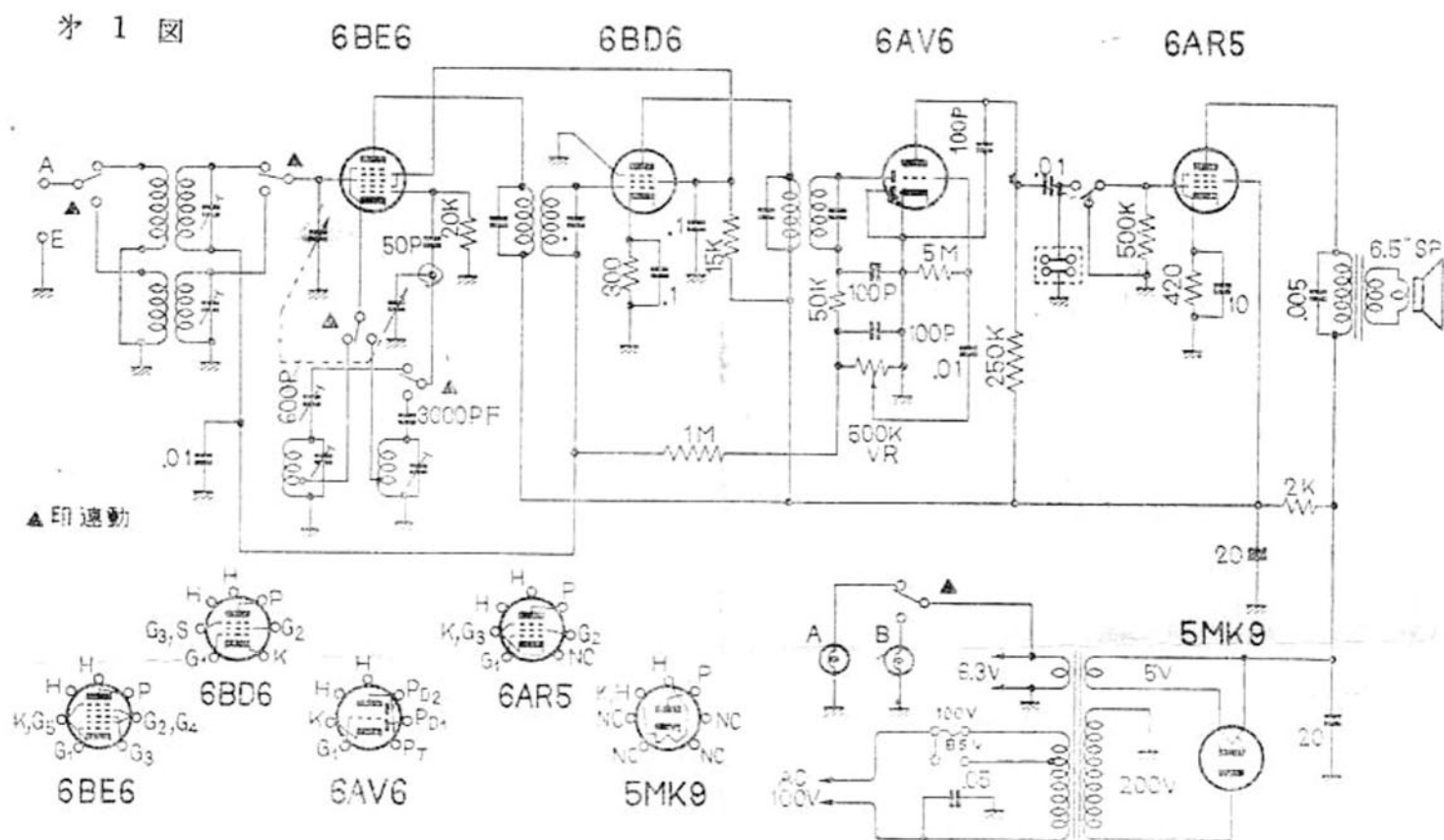
リンカーン 5A-35

先に発売して絶賛の御褒めをいただいた 5A-32 型に続いて、標準型 2 バンドラジオ 5A-35 型を発売いたします。キャビネットは従来のものに比べずつと大型になり、スピーカーも 6.5" 強力型を使用、高感度でしかも良い音質のラジオとして皆様に自信をもつておすすめします。

回路は下記の通りで各部品は充分厳選されていますから、皆様の御満足を得る事と思えます。なおイヤホン回路が付加されていますから、お一人で放送を楽しみたい方、深夜放送、大学受験講座等の聴取には絶対かかすことの出来ない便利なラジオと云えましょう。

組立てにかかる前に説明を最後までお読みになつてから取りかかつて下さい。

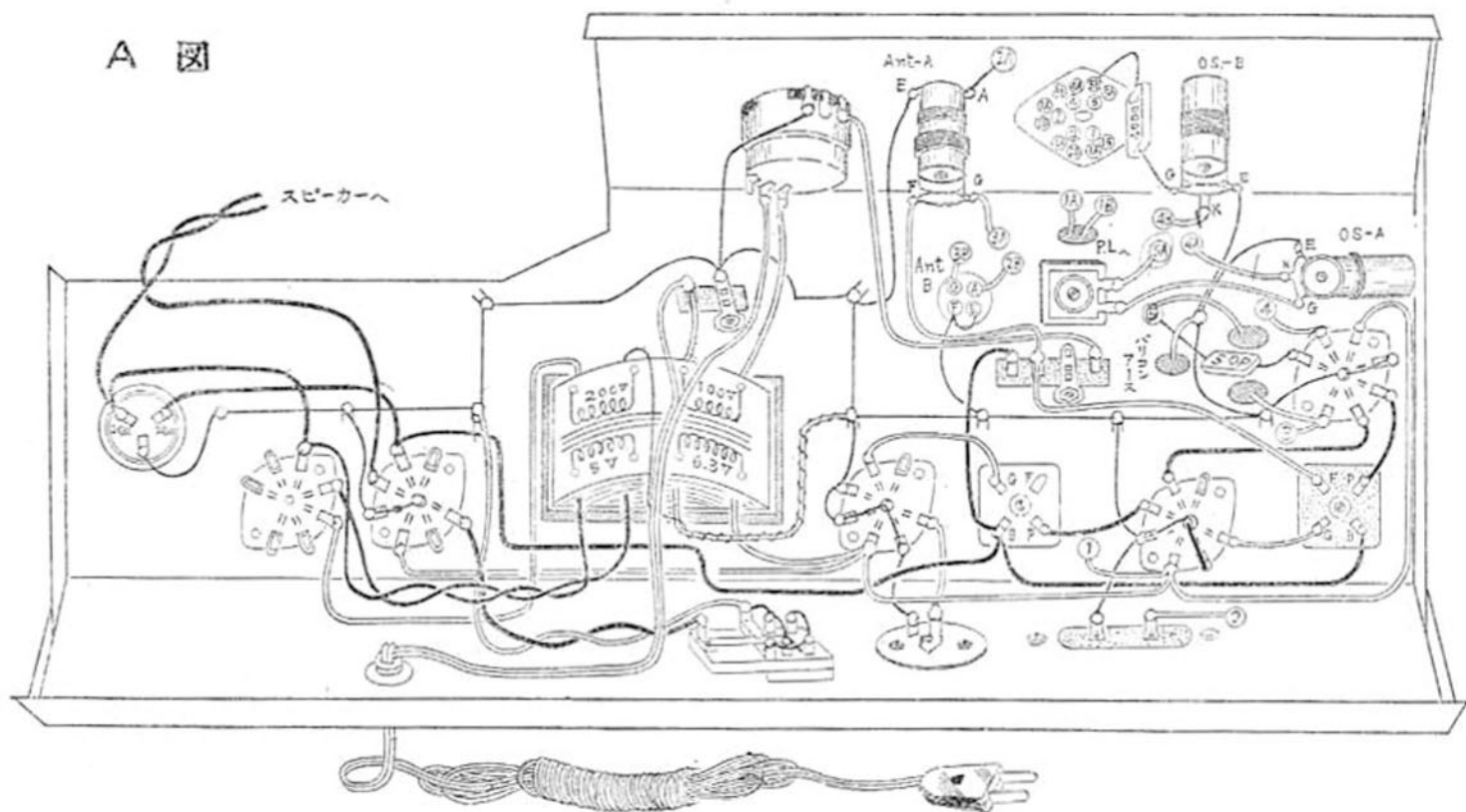
5A-35 配線図



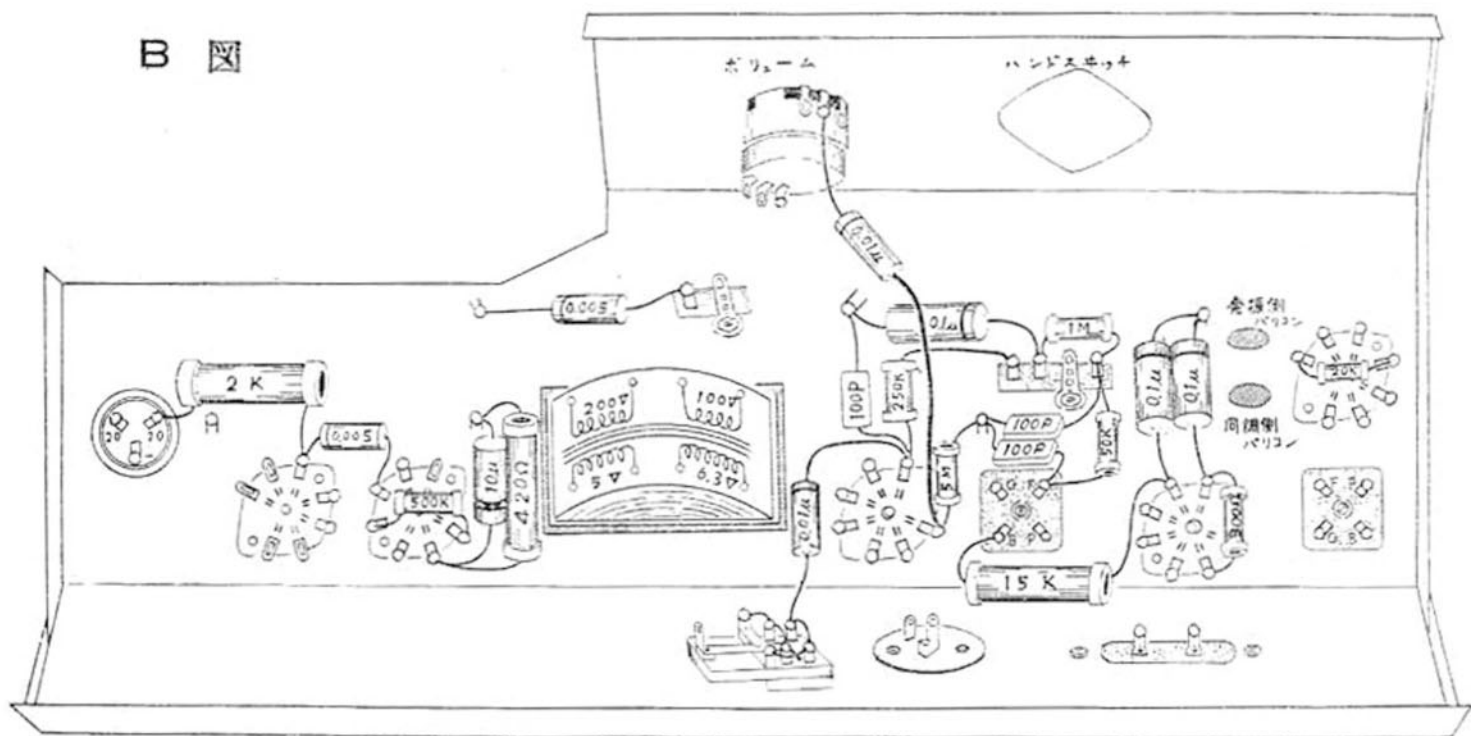
主要部品表

| 品名 | 数量 | 品名 | 数量 | 品名 | 数量 |
|-----------------|------------|----------------|-----|----------|----------------|
| 2 バンド コイル | 1 組 | MT 管用 ソケット | 5 | 真空管 | 6BE6 1 |
| パディング・コンデンサー | A 1 B 1 | フューズ | 1 | | 6BD6 1 |
| 中間周波トランス | 1 組 | イヤホンジャック | 1 | | 6AV6 1 |
| バリコン | 1 | 2P ターミナル | 1 | 固定コンデンサー | 6AR5 1 |
| 500kΩ S 付ボリューム | 1 | 中継ラグ | 3 | | 5MK9 1 |
| ロータリースイッチ 1.5-2 | 1 | 取付ビスナット | 1 揃 | | 0.1 μ 3 |
| キャビネット | 1 | パイロット及びソケット | 各 2 | 電解 | 0.01 μ 2 |
| ダイヤル | 1 | 配線用リード線 | 3 m | | 0.005 μ 2 |
| ダイヤルプーリー | 1 | メッキ線 | 1 m | | 100 P 3 |
| 全上用スプリング・糸 | 各 1 | エムパイヤチューブ | 3 本 | 固定抵抗 | 50 P 1 |
| シャシー | 1 | トランス (42.BK 用) | 1 | | 300 Ω 1/2 W 1 |
| ツマミ | 3 | スピーカー (6.5 吋) | 1 | | 420 Ω 2 W 1 |
| AC プラグ及びコード | 各 1 | | | | 2K Ω 3 W 1 |
| | | | | | 15K Ω 2 W 1 |
| | | | | | 20K Ω 1/4 W 1 |
| | | | | | 50K Ω 1/4 W 1 |
| | | | | | 250K Ω 1/2 W 1 |
| | | | | | 500K Ω 1/4 W 1 |
| | | | | | 1M Ω 1/4 W 1 |
| | | | | | 5M Ω 1/4 W 1 |

A 図



B 図



部品取付配線順序

1. ソケット取付
2. パディングコンデンサー
3. 中間周波トランス
4. VR及びロータリースイッチ
5. パリコン
6. 電解コンデンサー
7. 電源トランス
8. アース配線
9. リード配線
 - a. ヒーター回路
 - b. 整流及びB回路
 - c. I・F・T及び低周波回路
 - d. ボリューム及びイヤホン回路
10. 抵抗チューブラ配線
 - a. 50V 10 μ
- b. 420 Ω
- c. 0.005 μ 2ケ
- d. 500 K
- e. 2 K
- f. 0.01
- g. 0.01
- h. 100 P 3ケ
- i. 250 K
- j. 0.1 μ 3ケ
- k. 50 K
- l. 15 K
- m. 300 Ω
- n. 1 M
- o. 20 K
- p. 50 P
- q. 3000 P
11. アンテナコイル及び発振コイル
12. 電源コード

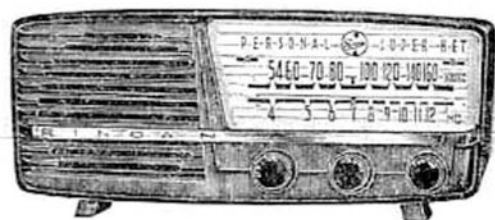
(以上A図参照)

(以上B図参照)

コイル色別表

| アンテナコイル | | |
|---------|---|---|
| A | — | 青 |
| E | — | 黒 |
| G | — | 黄 |
| F | — | 白 |
| 発振コイル | | |
| G | — | 黄 |
| K | — | 緑 |
| E | — | 黒 |

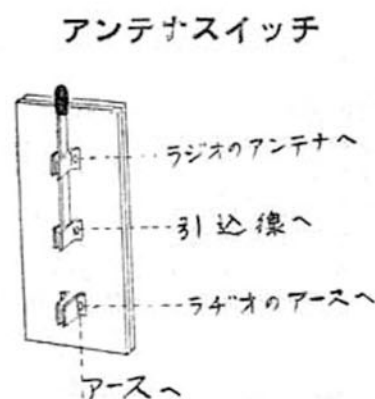
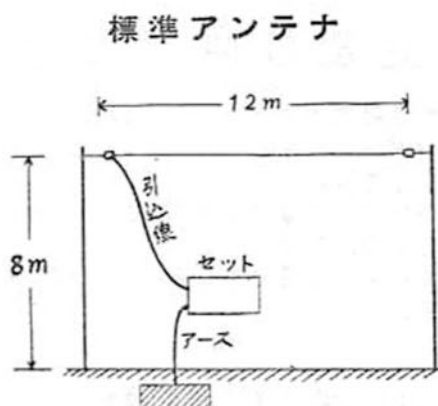
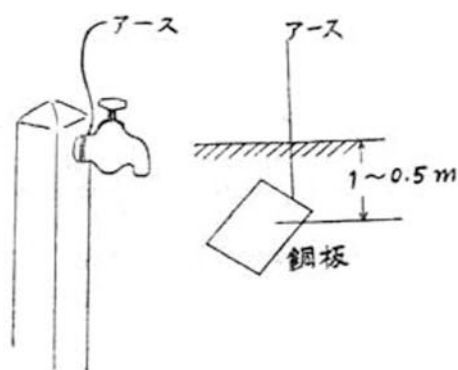
MODEL 5A-35



短波とアンテナ・アースについて

NSBは、屋外アンテナを張らなくても3~5m位の室内アンテナのみで十分聴取出来ますが、特に外国放送局を受信する時や外部雑音の多い所では、下図の様な標準アンテナ並にアースを設置されることをお奨めいたします。

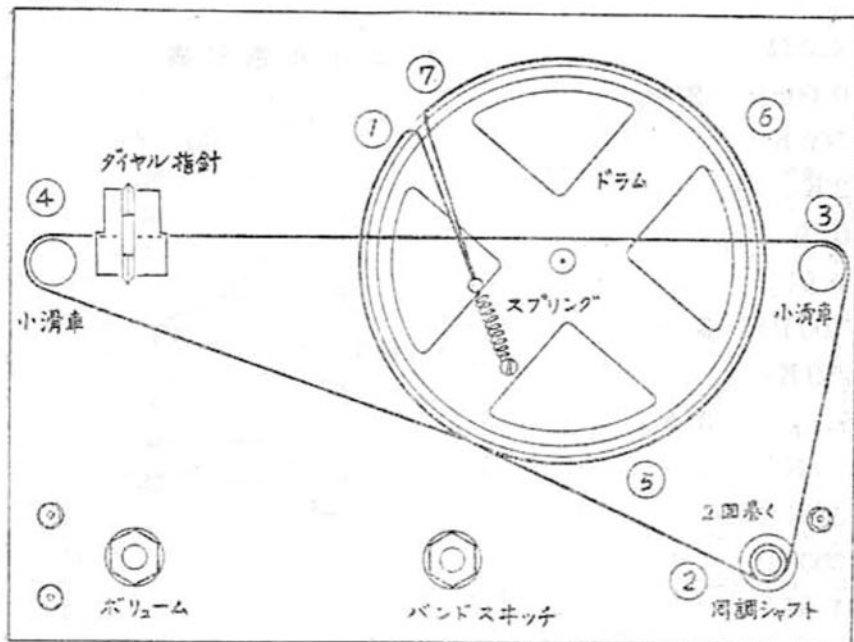
短波はその電波の性質上、時間、季節によつてよく聞えたり、聞えなかつたりいたします。NSB(日本短波放送)を受信する場合、JOZ₁、JOZ₂、JOZ₃のうちで、一番調子よく受信出来る所へ同調して下さい。外国放送の場合も同じことが云えます。



ダイヤル機構

バリコンを 0° (一番入った所) にして下図を参照しながら番号順に糸をかけます。ダイヤル指針は、ダイヤルとキャビネットの両方の中間に位する様にします。

図 2



調整

調整の正確を期するためには、各種測定器が必要ですが、最低限度の計器は、テストオシレーター (T.O) と真空管電圧計 (テスターで代用) です。いわゆる「カン」に頼る調整では、完全な調整は不可能です。

調整にかかる前にもう一度配線にミスがないか確認して下さい。ミスがなければ、テスター (導通計) で +B 回路、G 回路、RF 回路等とシャーシー間をチェックしてショートしてなければスイッチを入れ、次の順序で調整を行います。

1. I・F・T 回路

I・F・T は 455KC に調整済みですが、配線の仕方によつて多少ずれますからもう一度調べてみて下さい。ダストコアを 1 回転以内で 455KC に合う筈です。

2. 単 一 調 整

- ① セットのアンテナ端子に全波用ダミーアンテナ (400Ω で代用も可) を接続し、T.O より 10MC を発振させ、ダイヤルの 10MC に合う様 B バンド発振コイルのトリマーを調整します。この時にイメージ (10.910 MC) を掴まない様にして下さい。T.O を廻すと 2 点で音が出ますが低い方がホンモノです。
- ② 次に B バンドアンテナコイルのトリマーを音が最大になる様調整します。
- ③ ① ② を数回くり返せば B バンドは完全になります。
- ④ セットのアンテナ端子に全波用ダミーアンテナ (100P で代用も可) を接続、T.O より 1400KC を発振させ、ダイヤル指針を 1400 KC に合せ A バンド発振コイルのトリマーを調整。
- ⑤ ④ が最大になる様 A バンドアンテナコイルのトリマーを調整。
- ⑥ T.O より 600KC を出し、ダイヤル指針が 600 KC になる様 A バンドパディングコンデンサーを調整。
- ⑦ ④ ⑤ ⑥ を 2~3 回くり返せば完全となります。

以上を一覧表にまとめてみると

| 順序 | テストオシレーターが目盛 | ダイヤル目盛 | 調整箇所 |
|----|--------------|---------|-------------------|
| ① | 10 MC | 10 MC | B バンド 発振コイルトリマー |
| ② | " | " | B バンド アンテナトリマー |
| ③ | 1400 KC | 1400 KC | A バンド 発振コイルトリマー |
| ④ | " | " | A バンド アンテナコイルトリマー |
| ⑤ | 600 KC | 600 KC | A バンド パディングコンデンサー |
| ⑥ | | | |

組立及び使用の注意

1. 取付配線の順序は一例を示しましたから御参考まで御覧下さい。
2. バリコンは取付ける前にリードをハンダ付して下さい。
3. バリコンゴムは余り固くなく締付けて下さい。
4. ソケットは MT ソケットですからハンダ付には充分注意して下さい。ペーストが流れ込んだりハンダ粒が残つていたりすると思わぬ故障の原因となる事があります。
5. ロータリースイッチはなるべく手早くハンダ付を済すこと。又取付ける前に必要なリードは先にハンダ付けておくと配線が非常に手際よく出来ます。